



こんな風になるとは全然思わなかった

副校長 齊藤 境栄

NHKの「ニッポンの家族が非常事態」という番組で、中学生6人がLINEで自由に会話をする実験が行われました。

A 「今度遊び行きたーい」

B 「あ！」

C 「おー！」

B 「うんうん！」

D 「行きたーい」

C 「いいじやん」

どこに遊びに行くかを決める会話で、めまぐるしいスピードで打ち込まれます。会話のスピードについていけないEさんの一言で会話の雰囲気が変わります。

E 「ちょっとちょっと」

B 「もうちょい早くうてないの？は？なに？」

D 「空気読めよー」

F 「あんたのそういう処が嫌いなのよ」

ここで、Cさんが仲裁に入れます。

C 「1人に大勢が責めるとか、卑怯すぎ」

B 「喧嘩売ってるの？」

会話開始から30分で喧嘩になりました。

実験後、参加した中学生が会話を振り返ると、いつの間にか驚くほどきつい言葉を使っていることに気付きます。

D 「LINEでのやりとりって顔が見えないから強く言われると結構ショックを受ける。

だから自分も強く言い返しちゃう。」

B 「こっちも言われているしね？」

D 「こっちも結構言われてるからもういいやみ

たいな感じで送っちゃう。」

C 「ちょっと傷つきました。」

D 「こんな風になるとは全然思わなかった。」

実験を企画した大学の研究者は、次のように解説をしています。

『これを送ったらどう思うだろう』と想像する前に打たないと、『空気読めないやつ』になってしまう。それがきっと『いじり』から『いじめ』になって、より深刻になってしまいます。トラブルの見積もりの甘さがあるのではないだろうか。』

相手の顔や表情が見えずに文字だけの会話であること、会話のスピードを求められること、複数での会話であることなどから、面と向かっては言えそうにないきつい言葉を思わず使ってしまい、トラブルとなることがあるようです。

杉十小では、昨年度、杉十小SNSルールを作成しました。

1 家の人と相談してからスマートフォンなどは使おう

2 送信前には相手の気持ちを考えて読み返そう

3 個人情報は書き込んではいけません

4 インターネットの掲示板やSNSで知り合った人に会ってはいけません

お子さまが携帯電話を所有しているご家庭では、お子さまの携帯電話の使用状況をどのくらい把握していらっしゃいますか？改めて使用のルールやマナーを話題にしてください。トラブルに巻き込まれないようにするために、是非、話し合ってみてください。

杉十小の校内研究について

これからの中学生には、どのような「学力」が必要なのでしょうか。「学力」というと、「漢字を正しく書く」「計算を正確にする」「問題を間違えずに解く」が思い浮かびます。これらの基礎学力はとても大事です。本校でも、「くりかえし必ずドリルは2回やる」や「かがやきの時間」を通して、確かな学力の定着や学び残しの解消に取り組んでいます。さらに、これからの中学生は「予測困難な時代」と言われ、「課題を見つける力」「情報を収集する力」「仲間とかかわりながら協働的に解決しようとする力」「解決に向かって粘り強く考える力」などが求められています。

本校では、「自然や人、自分との対話を通して主体的に学ぶ児童の育成～事実をもとに考えを深める子～」を研究主題とし、理科、生活科の授業を通して、研究をしています。一つの事実だけで判断するのではなく、いくつもの事実や結果から総合的に判断し、「今考えられる最も妥当な見方や考え方は何か」を考えられる児童の育成を目指しています。研究を通して、未来に「かがやく」杉十の子を育てていきます。

10月27日（金）には、研究の成果を全国に向けて発表します。

道徳授業地区公開講座を終えて

道徳主任

6月24日（土）各学級での道徳授業公開をしました。「特別の教科 道徳」ということで、体験的な活動を取り入れたり、より深く考えさせるために話し合い活動を取り入れたりしました。詳しくは、「土曜授業だより」をご覧ください。



3校時は、体育館で済美教育センターの教育指導教員の日浦克子先生による公開授業を行いました。5年生児童と保護者、地域の方々と共に「生きるということ」について考え、話し合いました。11歳の宮越由貴奈さんが書いた「命」という詩を読み、由貴奈さんの思いを考えながら、グループで意見交流しました。子どもたちのグループに大人が入り、一緒に考えたり話し合ったりしました。温かな雰囲気の中、普段なかなか考える機会のない、でもとても大切なことを共有できた貴重な授業でした。きっと子どもたちの心に深く刻まれたことだと思います。

ことばの教室より

ことばの教室 教諭

杉十小ことばの教室は、杉並区の東部地域の小学校に通っているお子さんを対象に、週1~2回45分~90分ことばやきこえについて個別の支援を行っている学級です。

また、写真のように、「ことばやきこえの課題、ことばの教室の様子、学習の内容」等について、杉十小の児童が理解を深められるように、1・3・5年生に「ことばの教室の学習」の授業も行っています。

お子さんのことばに関する心配があるときは、小さなことでもお気軽にご相談ください。



5・6年生富士学園移動教室を終えて

5年 教諭

6月5日(月)～6月7日(水) 2泊3日の富士学園移動教室に行ってきました。

出発式で校長先生から「当たり前のことを当たり前にやりましょう。」という言葉をいただき、全員で自立した生活を送ろうという気持ちをもって杉十小を出発しました。

1日目は富岳風穴を見学し、富士山科学研究所に行き、種の模型作りのプログラムを体験しました。少し形が違うだけで種の落ち方が変わることを知り、何度も模型の落ち方を観察しました。

宿舎での生活ではそれが自分の役割をしっかり果たそうとしている様子から高学年としての頼もしさを感じることができました。

2日目は、朝から忍野八海見学、高座山登山に出かけました。忍野八海では、見事な池の様子に感動の声が上がりました。登山が始まり、前日からの疲れを感じ始めたころ、子供たちに襲いかかる急斜面には、声にならない声が漏れていきました。しかし、さすがは高学年「ヒーヒー、ハーハー」言いながらも全員が登り切ることができました。登り切った後には、みなさんいい表情をしていました。

夜は楽しみにしていたキャンプファイヤーです。普段とは違う環境に一同大盛り上がり、登山の疲れなんて覚えちやいません。さすがに疲れたのか、消灯後はぐっすり眠っていました。

3日目は、たてわり班に分かれて「湧水の里水族館」「富士山レーダードーム館」「富士山ミュージアム」の3つの施設を見学しました。どのグループも時間を守って行動することができました。

3日間を通して、天気にも恵まれ、山梨県の自然を存分に満喫して帰ってくることができました。大きなけがや事故がなく帰ってこられたのは、自分たちがそれぞれの役割を果たそうとする姿勢や高学年としての自覚をもった行動がもたらした結果であると感じています。今後も杉十小の高学年としてよい手本となることを楽しみにしています。



富士山科学研究所にて



襲いかかる急斜面

たてわり班活動について

たてわり班活動担当

主任教諭

主任教諭

本校では、1～6年生が一緒に活動するたてわり班活動を行っています。班長を中心に、異なった学年と交流を図り、児童同士の結びつきを強める目的で活動をしています。

5月9日には、顔合わせを行い、班のメンバーや各学年のめあてを確認し、6月の遊びを話し合いで決めました。年間で8回の遊びや給食の活動がありますが、その活動だけでなく、蚕糸の森公園の清掃や遠足、移動教室、土曜授業などの学校行事でも一緒に活動をしていきます。

6年生を中心に楽しい活動となるようにしていきますので、ご家庭での話題にもしてみてください。